

(4) 総便益額算出表－6

評価期間	年度	割引率 (1+割引率) ^t ①	経過年 (t)	水田貯留機能向上効果						備考
				更新分に 係る効果		新設及び機能向上分 に係る効果		計		
				年効果額 (千円) ②	年効果額 (千円) ③	効果発生 割合 (%) ④	年発生 効果額 (千円) ⑤=③×④	年効果額 (千円) ⑥=②+⑤	同割引後 (千円) ⑦=⑥÷①	
1	R8	1.0400	1	-	25,625	0.0	0	0	0	
2	R9	1.0816	2	-	25,625	5.9	1,512	1,512	1,398	
3	R10	1.1249	3	-	25,625	28.8	7,380	7,380	6,561	
4	R11	1.1699	4	-	25,625	46.0	11,788	11,788	10,076	
5	R12	1.2167	5	-	25,625	69.9	17,912	17,912	14,722	
6	R13	1.2653	6	-	25,625	94.0	24,088	24,088	19,037	
7	R14	1.3159	7	-	25,625	100.0	25,625	25,625	19,473	
8	R15	1.3686	8	-	25,625	100.0	25,625	25,625	18,724	
9	R16	1.4233	9	-	25,625	100.0	25,625	25,625	18,004	
10	R17	1.4802	10	-	25,625	100.0	25,625	25,625	17,312	
11	R18	1.5395	11	-	25,625	100.0	25,625	25,625	16,645	
12	R19	1.6010	12	-	25,625	100.0	25,625	25,625	16,006	
13	R20	1.6651	13	-	25,625	100.0	25,625	25,625	15,389	
14	R21	1.7317	14	-	25,625	100.0	25,625	25,625	14,798	
15	R22	1.8009	15	-	25,625	100.0	25,625	25,625	14,229	
16	R23	1.8730	16	-	25,625	100.0	25,625	25,625	13,681	
17	R24	1.9479	17	-	25,625	100.0	25,625	25,625	13,155	
18	R25	2.0258	18	-	25,625	100.0	25,625	25,625	12,649	
19	R26	2.1068	19	-	25,625	100.0	25,625	25,625	12,163	
20	R27	2.1911	20	-	25,625	100.0	25,625	25,625	11,695	
21	R28	2.2788	21	-	25,625	100.0	25,625	25,625	11,245	
22	R29	2.3699	22	-	25,625	100.0	25,625	25,625	10,813	
23	R30	2.4647	23	-	25,625	100.0	25,625	25,625	10,397	
24	R31	2.5633	24	-	25,625	100.0	25,625	25,625	9,997	
25	R32	2.6658	25	-	25,625	100.0	25,625	25,625	9,612	
26	R33	2.7725	26	-	25,625	100.0	25,625	25,625	9,243	
27	R34	2.8834	27	-	25,625	100.0	25,625	25,625	8,887	
28	R35	2.9987	28	-	25,625	100.0	25,625	25,625	8,545	
29	R36	3.1187	29	-	25,625	100.0	25,625	25,625	8,217	
30	R37	3.2434	30	-	25,625	100.0	25,625	25,625	7,901	
31	R38	3.3731	31	-	25,625	100.0	25,625	25,625	7,597	
32	R39	3.5081	32	-	25,625	100.0	25,625	25,625	7,305	
33	R40	3.6484	33	-	25,625	100.0	25,625	25,625	7,024	
34	R41	3.7943	34	-	25,625	100.0	25,625	25,625	6,754	
35	R42	3.9461	35	-	25,625	100.0	25,625	25,625	6,494	
36	R43	4.1039	36	-	25,625	100.0	25,625	25,625	6,244	
37	R44	4.2681	37	-	25,625	100.0	25,625	25,625	6,004	
38	R45	4.4388	38	-	25,625	100.0	25,625	25,625	5,773	
39	R46	4.6164	39	-	25,625	100.0	25,625	25,625	5,551	
40	R47	4.8010	40	-	25,625	100.0	25,625	25,625	5,337	
41	R48	4.9931	41	-	25,625	100.0	25,625	25,625	5,132	
42	R49	5.1928	42	-	25,625	100.0	25,625	25,625	4,935	
43	R50	5.4005	43	-	25,625	100.0	25,625	25,625	4,745	
44	R51	5.6165	44	-	25,625	100.0	25,625	25,625	4,562	
45	R52	5.8412	45	-	25,625	100.0	25,625	25,625	4,387	
46	R53	6.0748	46	-	25,625	100.0	25,625	25,625	4,218	
合計（総便益額）									452,636	

※経過年は評価年からの年数。

※小数点以下を四捨五入していることから、記載値は計算結果と合わない場合がある。

(4) 総便益額算出表－7

評価期間	年度	割引率 (1+割引率) ^t ①	経過年 (t)	国産農産物安定供給効果						備考
				更新分に 係る効果		新設及び機能向上分 に係る効果		計		
				年効果額 (千円) ②	年効果額 (千円) ③	効果発生 割合 (%) ④	年発生 効果額 (千円) ⑤=③×④	年効果額 (千円) ⑥=②+⑤	同割引後 (千円) ⑦=⑥÷①	
1	R8	1.0400	1	2,378	311	0.0	0	2,378	2,287	
2	R9	1.0816	2	2,378	311	5.9	18	2,396	2,215	
3	R10	1.1249	3	2,378	311	28.8	90	2,468	2,194	
4	R11	1.1699	4	2,378	311	46.0	143	2,521	2,155	
5	R12	1.2167	5	2,378	311	69.9	217	2,595	2,133	
6	R13	1.2653	6	2,378	311	94.0	292	2,670	2,110	
7	R14	1.3159	7	2,378	311	100.0	311	2,689	2,043	
8	R15	1.3686	8	2,378	311	100.0	311	2,689	1,965	
9	R16	1.4233	9	2,378	311	100.0	311	2,689	1,889	
10	R17	1.4802	10	2,378	311	100.0	311	2,689	1,817	
11	R18	1.5395	11	2,378	311	100.0	311	2,689	1,747	
12	R19	1.6010	12	2,378	311	100.0	311	2,689	1,680	
13	R20	1.6651	13	2,378	311	100.0	311	2,689	1,615	
14	R21	1.7317	14	2,378	311	100.0	311	2,689	1,553	
15	R22	1.8009	15	2,378	311	100.0	311	2,689	1,493	
16	R23	1.8730	16	2,378	311	100.0	311	2,689	1,436	
17	R24	1.9479	17	2,378	311	100.0	311	2,689	1,380	
18	R25	2.0258	18	2,378	311	100.0	311	2,689	1,327	
19	R26	2.1068	19	2,378	311	100.0	311	2,689	1,276	
20	R27	2.1911	20	2,378	311	100.0	311	2,689	1,227	
21	R28	2.2788	21	2,378	311	100.0	311	2,689	1,180	
22	R29	2.3699	22	2,378	311	100.0	311	2,689	1,135	
23	R30	2.4647	23	2,378	311	100.0	311	2,689	1,091	
24	R31	2.5633	24	2,378	311	100.0	311	2,689	1,049	
25	R32	2.6658	25	2,378	311	100.0	311	2,689	1,009	
26	R33	2.7725	26	2,378	311	100.0	311	2,689	970	
27	R34	2.8834	27	2,378	311	100.0	311	2,689	933	
28	R35	2.9987	28	2,378	311	100.0	311	2,689	897	
29	R36	3.1187	29	2,378	311	100.0	311	2,689	862	
30	R37	3.2434	30	2,378	311	100.0	311	2,689	829	
31	R38	3.3731	31	2,378	311	100.0	311	2,689	797	
32	R39	3.5081	32	2,378	311	100.0	311	2,689	767	
33	R40	3.6484	33	2,378	311	100.0	311	2,689	737	
34	R41	3.7943	34	2,378	311	100.0	311	2,689	709	
35	R42	3.9461	35	2,378	311	100.0	311	2,689	681	
36	R43	4.1039	36	2,378	311	100.0	311	2,689	655	
37	R44	4.2681	37	2,378	311	100.0	311	2,689	630	
38	R45	4.4388	38	2,378	311	100.0	311	2,689	606	
39	R46	4.6164	39	2,378	311	100.0	311	2,689	582	
40	R47	4.8010	40	2,378	311	100.0	311	2,689	560	
41	R48	4.9931	41	2,378	311	100.0	311	2,689	539	
42	R49	5.1928	42	2,378	311	100.0	311	2,689	518	
43	R50	5.4005	43	2,378	311	100.0	311	2,689	498	
44	R51	5.6165	44	2,378	311	100.0	311	2,689	479	
45	R52	5.8412	45	2,378	311	100.0	311	2,689	460	
46	R53	6.0748	46	2,378	311	100.0	311	2,689	443	
合計（総便益額）									55,158	

※経過年は評価年からの年数。

※小数点以下を四捨五入していることから、記載値は計算結果と合わない場合がある。

2 年効果額の算定方法

(1) 作物生産効果

○効果の考え方

事業を実施した場合（事業ありせば）と実施しなかった場合（事業なかりせば）の作物生産量の比較により年効果額を算定した。

○対象作物

水稲、大麦、かぼちゃ

○年効果額算定式

年効果額＝単収増加年効果額^{※1}＋作付増減年効果額^{※2}

※1 単収増加年効果額＝作付面積×（事業ありせば単収－事業なかりせば単収）×単価×単収増加の純益率

※2 作付増減年効果額＝（事業ありせば作付面積－事業なかりせば作付面積）×単収×単価×作付増減の純益率

○年効果額の算定

作物名	新設・更新	作付面積		効果要因	単 収			生産増減量 ③＝ ①×②÷100	生産物単価 ④	増 加 粗 収 益 額 ⑤＝③×④	純益率 ⑥	年効果額 ⑦＝⑤×⑥	
		現況	計画		効果発生面積 ①	事業なかりせば単収 kg/10a	事業ありせば単収 kg/10a						効果対象単収 ②
水稲	新設	ha	ha	ha	単収増 (乾田化)	484	513	29	5.9	-	-	-	
		20.7	20.5		小計	-	-	-	5.9	220	1,298	89	1,155
				△ 0.2	作付減	-	-	484	△ 1.0	-	-	-	-
	更新												
		20.7	20.7	20.7	単収増 (水管理改良)	203	484	281	58.2	-	-	89	-
					小計	-	-	-	58.2	220	12,804	-	11,396
				水稲計	-	-	-	63.1	-	13,882	-	12,551	
大麦	新設			4.1	単収増 (田畑輪換)	83	95	12	0.5	-	-	-	
		5.2	4.1		小計	-	-	-	0.5	31	16	90	14
				△ 1.1	作付減	-	-	83	△ 0.9	-	-	-	-
				小計	-	-	-	△ 0.9	31	△ 28	9	△ 3	
				大麦計	-	-	-	△ 0.4	-	△ 12	-	11	
かぼちゃ	新設		0.8	0.8	作付増	-	-	1,001	8.0	-	-	-	
					小計	-	-	-	8.0	250	2,000	17	340
					かぼちゃ計	-	-	-	8.0	-	2,000	-	340
水田計	新設	25.9	25.4									3,066	1,506
	更新	20.7	20.7									12,804	11,396
	新設											3,066	1,506
	更新											12,804	11,396
	合計											15,870	12,902

- ・作付面積：各作物の作付面積は以下のとおり
 - 「現況作付面積」・輪島市の作付実績に基づき決定した。
 - 「計画作付面積」・新設整備では、県、輪島市、JAの農業振興計画や関係者の意向を踏まえ決定した。
 - ・更新整備では、現況施設のもとで作物生産量が維持される面積であり、現況＝計画とした。

- ・単 収 : 増加粗収益額の算定に用いる各作物の単収については、以下のとおり
 - 「事業なかりせば単収」
 - ・新設整備では、現況単収であり、農林水産統計等による最近5か年の平均単収により算定した。
 - ・更新整備では、用水機能の喪失時の単収であり、現況単収に効果要因別の失われる増収率分を減じて算定した。
 - 「事業ありせば単収」
 - ・新設整備では、計画単収であり、現況単収に効果要因別の増収率を考慮して算定した。
 - ・更新整備では、現況単収であり、農林水産統計等による最近5か年の平均単収により算定した。
 - 「効果算定対象単収」
 - ・事業ありせば単収と事業なかりせば単収の差である。
(作付増においては、地域の計画単収、作付減においては地域の現況単収である。)
- ・生産物単価 : 農業物価統計等による最近5か年の販売価格に消費者物価指数を反映した価格を用いた。
- ・純 益 率 : 「土地改良事業の費用対効果分析必要な諸係数について」による標準値等を用いた。

(2) 営農経費節減効果

○効果の考え方

事業を実施した場合（事業ありせば）と事業を実施しなかった場合（事業なかりせば）の労働費、機械経費、その他の生産資材費について比較し、それらの営農経費の増減から年効果額を算定した。

○対象作物

水稻、大麦

○効果算定式

年効果額 = (事業なかりせば単位面積当たり営農経費 - 事業ありせば単位面積当たり営農経費) × 効果発生面積

○年効果額の算定

作物名	ha当たり営農経費				ha当たり 経費節減額 ⑤ = (①-②) + (③-④)	効果発生 面積 ⑥	年効果額 ⑦ = ⑤ × ⑥
	新 設		更 新				
	現況 (事業なかりせば) ①	計画 (事業ありせば) ②	事業なかりせば 営農経費 ③	現況 (事業ありせば) ④			
水稻 (区画整理：パイライン→パイ ライン) 30a小規模農家→小規模農家	円 4,585,074	円 1,678,000	円 -	円 -	円 2,907,074	ha 0.4	千円 1,163
水稻 (区画整理：パイライン→パイ ライン) 50a小規模農家→小規模農家	円 4,585,074	円 1,655,971	円 -	円 -	円 2,929,103	ha 0.6	千円 1,757
水稻 (区画整理：パイライン→パイ ライン) 50a小規模農家→担い手	円 4,585,074	円 905,000	円 -	円 -	円 3,680,074	ha 0.2	千円 736
水稻 (区画整理：パイライン→パイ ライン) 100a小規模農家→担い手	円 4,585,074	円 884,289	円 -	円 -	円 3,700,785	ha 1.2	千円 4,441
水稻 (区画整理：パイライン→パイ ライン) 50a担い手→担い手	円 1,010,773	円 905,000	円 -	円 -	円 105,773	ha 0.5	千円 53
水稻 (区画整理：パイライン→パイ ライン) 100a担い手→担い手	円 1,010,773	円 884,289	円 -	円 -	円 126,484	ha 2.6	千円 329
水稻 (区画整理：パイライン→パイ ライン) 30a小規模農家→法人	円 4,585,074	円 447,270	円 -	円 -	円 4,137,804	ha 0.6	千円 2,483
水稻 (区画整理：パイライン→パイ ライン) 30a法人→法人	円 698,969	円 447,270	円 -	円 -	円 251,699	ha 0.4	千円 101
水稻 (区画整理：開水路→パイラ イン) 30a小規模農家→小規模農家	円 4,634,004	円 1,678,000	円 -	円 -	円 2,956,004	ha 0.9	千円 2,660
水稻 (区画整理：開水路→パイラ イン) 50a小規模農家→小規模農家	円 4,634,004	円 1,655,971	円 -	円 -	円 2,978,033	ha 1.5	千円 4,467
水稻 (区画整理：開水路→パイラ イン) 50a小規模農家→担い手	円 4,634,004	円 905,000	円 -	円 -	円 3,729,004	ha 0.3	千円 1,119

水稲 (区画整理：開水路→パイプライン) 100a小規模農家→担い手	4,634,004	884,289	-	-	3,749,715	1.3	4,875	
水稲 (区画整理：開水路→パイプライン) 30a担い手→担い手	1,059,703	923,833	-	-	135,870	0.2	27	
水稲 (区画整理：開水路→パイプライン) 50a担い手→担い手	1,059,703	905,000	-	-	154,703	0.7	108	
水稲 (区画整理：開水路→パイプライン) 100a担い手→担い手	1,059,703	884,289	-	-	175,414	2.7	474	
水稲 (区画整理：開水路→パイプライン) 30a小規模農家→法人	4,634,004	447,270	-	-	4,186,734	0.2	837	
水稲 (区画整理：開水路→パイプライン) 100a小規模農家→法人	4,634,004	404,339	-	-	4,229,665	3.3	13,958	
水稲 (区画整理：開水路→パイプライン) 30a法人→法人	747,899	447,270	-	-	300,629	0.2	60	
水稲 (区画整理：開水路→パイプライン) 100a法人→法人	747,899	404,339	-	-	343,560	2.6	893	
大麦 (区画整理：開水路→パイプライン) 30a法人→法人	514,010	410,895	-	-	103,115	0.6	62	
大麦 (区画整理：開水路→パイプライン) 50a法人→法人	514,010	389,871	-	-	124,139	1.5	186	
大麦 (区画整理：開水路→パイプライン) 100a法人→法人	514,010	375,611	-	-	138,399	2.0	277	
水稲 (用水改良：パイプライン→パイプライン) 30～100a小規模農家	-	-	4,568,823	4,585,074	△16,251	1.0	△16	
水稲 (用水改良：パイプライン→パイプライン) 30～100a担い手	-	-	891,711	925,962	△34,251	3.0	△103	
水稲 (用水改良：パイプライン→パイプライン) 30～100a法人	-	-	639,937	674,189	△34,252	2.3	△79	
水稲 (用水改良：開水路→パイプライン) 30～100a小規模農家	-	-	4,568,823	4,634,004	△65,181	2.4	△156	
水稲 (用水改良：開水路→パイプライン) 30～100a担い手	-	-	891,711	974,892	△83,181	6.9	△574	
水稲 (用水改良：開水路→パイプライン) 30～100a法人	-	-	639,937	723,119	△83,182	5.1	△424	
新設								41,066
更新								△1,352
合計								39,714

・各作物のha当たり営農経費は以下のとおり

- ・現況営農経費 : 地域の営農経費であり、石川県の農業経営指標等に基づき算定した。
- ・計画営農経費 : 想定される事業により増減した地域の営農経費であり、石川県の農業経営指標等を基に、地域の農業関係機関、普及センターの指導方針を反映し算定した。
- ・事業なかりせば営農経費 : 地域の水利施設の機能が失われた場合に想定される水管理作業に係る経費を考慮し算定した。

(3) 維持管理費節減効果

○効果の考え方

事業を実施した場合（事業ありせば）と実施しなかった場合（事業なかりせば）を比較し、維持管理費の増減をもって年効果額を算定した。

○対象施設

頭首工、用水機、ため池、用水路、排水路、農道、暗渠排水、調整池

○効果算定式

年効果額＝事業なかりせば維持管理費－事業ありせば維持管理費

○年効果額の算定

区分	新設	現況維持管理費①	事業ありせば維持管理費②	年効果額 ③＝①－②
	更新	事業なかりせば維持管理費①	現況維持管理費②	
		千円	千円	千円
新設整備		4,589	2,259	2,330
更新整備		1,272	4,589	△ 3,317
合計				△ 987

・事業なかりせば維持管理費

：現況施設の維持管理費を基に、施設の機能を失った場合に想定される安全管理等に最低限必要な維持管理を算定した。

・事業ありせば維持管理費

：現況施設の維持管理費を基に、本事業の実施により見込まれる維持管理費の増減を考慮し算定した。

・現況維持管理費

：現況施設の維持管理費に基づき算定した。

(4) 農業労働環境改善効果

○効果の考え方

事業の実施により、営農に係る労働が質的に改善（労働強度の改善、精神的疲労の軽減等）される効果であり、市場で扱われていない価値であるため、受益者にWTP（Willingness To Pay：支払意思額）を尋ねることで、その価値を直接的に評価する手法であるCVM（Contingent Valuation Method：仮想市場法）により効果を算定した。

○対象作業

農業機械運転作業

○効果算定式

年効果額 = 労働改善に対する支払意思額 × 受益面積

○年効果額の算定

作業負荷軽減対象作業名	作業負荷軽減対象作業方法			労働改善に関するWTP (円/10a/年)		受益面積 (ha)		年効果額 (千円)	
				更新分	新設及び機能向上	更新分	新設及び機能向上	更新分	新設及び機能向上
	事業なかりせば	現況	計画	①	②	③	④	⑤= ①×③	⑥= ②×④
農業機械運転作業 (運搬)	-	農道が狭く、走行時の脱輪、転落の危険があり、すれ違いができず迂回の必要がある	農道が拡張され走行の安全性の確保、すれ違いが可能となる	-	6,618	-	26.3	-	1,741
農業機械運転作業 (田植)	-	排水状況が悪い湿田で農業機械の走行に支障がある	排水状況が改善され農業機械による効率的な作業が可能となり、負担が軽減	-	8,251	-	26.3	-	2,170
合計									3,911

- ・労働改善に関するWTP : 受益者に対するアンケート調査結果から得られた、労働改善に対する支払意思額
- ・受益面積 : 事業地区内における当該効果にかかる受益面積

(5) 景観・環境保全効果

○効果の考え方

景観や自然環境が保全、創設される効果であり、市場で扱われていない価値であるため、地域住民等にWTP (Willingness To Pay: 支払意思額) を尋ねることで、その価値を直接的に評価する手法であるCVM (Contingent Valuation Method: 仮想市場法) により効果を算定した。

○対象施設

排水路

○年効果額算定式

年効果額 = 一戸当たりの支払意思額[※] × 受益範囲世帯数 × {C1 / (C1 + C2)}
ただし、

C1: 景観・環境保全施設の資本還元額のうち当該土地改良事業分

C2: 景観・環境保全施設の資本還元額のうちその他事業分

※過去の国営地区における算定結果を基にした計算式によりWTPを推計

○年効果額の算定

区分	土地改良施設名	CVMによる効果額 ①	景観・環境保全施設の資本還元額 ②=③+④	当該土地改良事業の資本還元額 ③	その他の事業の資本還元額 ④	当該土地改良事業における効果額 ⑤=①×(③/②)
		千円	千円	千円	千円	千円
新設整備	排水路	1,473	9,190	9,190	-	1,473

(6) その他の効果（水田貯留機能向上効果）

○効果の考え方

事業を実施した場合（事業ありせば）と実施しなかった場合（事業なかりせば）を比較し、水田貯留機能の向上に向けた取組に必要な施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での当該地域や下流域の洪水被害が防止又は軽減される年効果額を算定した。

○対象施設

補強された畦畔、落水口、流出量調整器具

○効果算定式

年効果額 = ピークカット流出量 × 排水量当たり単価 × 還元率

○年効果額の算定

区分	ピーク カット 流出量 ①	排水量当たり 単価 ②	還元率 ③	年効果額 ④ = ① × ② × ③
	m ³ /s	千円/m ³ /s		千円
新設整備	2.464	141,303	0.0736	25,625
更新整備	-	-	-	-
合計				25,625

- ・ピークカット流出量 : 事業なかりせば最大流出量－事業ありせば最大流出量
- ・排水量当たり単価 : 近傍排水施設の事業費と排水量により算定
- ・還元率 : 施設が有している総効果額を耐用年数期間における年効果額に換算するための係数

(7) その他の効果（国産農産物安定供給効果）

○効果の考え方

国産農産物の安定供給に対して国民が感じる安心感の効果であるため、一般国民に対してWTP（Willingness To Pay：支払意思額）を尋ねることで、その価値を直接的に評価する手法であるCVM（Contingent Valuation Method：仮想市場法）により年効果額を算定した。

○対象作物

水稻、大麦、かぼちゃ

○効果算定式

年効果額＝年増加粗収益額 × 単位食料生産額当たり効果額（原単位）
 ＋ 年増加供給熱量 × 単位供給熱量当たり効果額（原単位）

○年効果額の算定

区分	増加粗収益額 ①	増加供給熱量 (千kcal) ②	単位食料生産額 当たり効果額 (円/千円) ③	単位供給熱量 当たり効果額 (円/千kcal) ④	当該土地改良 事業における 年効果額 ⑤＝①×③ ＋②×④
	千円	千kcal	円/千円	円/千kcal	千円
新設整備	3,066	16,232	49	9.9	311
更新整備	12,804	176,928	49	9.9	2,378
合計	15,870	193,160			2,689

- ・ 増加粗収益額 : 作物生産効果の算定過程で整理した結果を用いて、事業ありせばと事業なかりせばにおける増加粗収益額及び増加供給熱量を整理した。
- ・ 単位食料生産額
 当たり効果額 : 一般国民に対し国産農産物の安定供給についてWTPを尋ねるCVMにより、年効果額の算定に用いる単位食料生産額当たり効果額（原単位）は49円/千円、単位供給熱量当たり効果額（原単位）は9.9円/千kcalとした

3 評価に使用した資料

【共通】

- ・ 農林水産省農村振興局整備部（監修）[改訂版]「新たな土地改良の効果算定マニュアル」大成出版社（平成27年9月5日第2版第1刷発行）
- ・ 「土地改良事業の費用対効果分析マニュアルの制定について」（平成19年3月28日付け18農振第1597号農林水産省農村振興局企画部長通知（最終改正：令和7年4月2日））
- ・ 「国産農産物安定供給効果」について（平成27年3月27日付け26農振第2072号農林水産省農村振興局整備部長通知（令和5年4月3日一部改正））
- ・ 土地改良事業の費用対効果分析における参考資料等について（令和4年4月11日付け農林水産省農村振興局整備部関係課関係班連名事務連絡）
- ・ 土地改良事業の費用対効果分析における参考資料等について（令和5年9月13日付け農林水産省農村振興局整備部関係課関係班連名事務連絡）
- ・ 土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について（平成19年3月28日付け18農振第1598号農林水産省農村振興局企画部長通知（令和7年4月1日一部改正））
- ・ 土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数等について（令和7年4月1日付け農林水産省農村振興局整備部土地改良企画課課長補佐（事業効果班）事務連絡）

【費用】

- ・ 当該事業費に係る一般に公表されていない諸元については、石川県農林水産部農業基盤課調べ

【便益】

- ・ 北陸農政局統計部（令和2～6年）「北陸農林水産統計年報」北陸農政局統計部
- ・ 農林水産省統計部（令和2年）「2020年農林業センサス石川県統計書」農林水産統計協会
- ・ 上記以外の効果算定に必要な各種諸元については、石川県農林水産部農業基盤課調べ